



平成 26 年 12 月期 第 1 四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成 26 年 4 月 25 日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東  
 コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 邦夫  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 総務人事部長 (氏名) 猿山 博人 (TEL) 03 (3829) 3210  
 四半期報告書提出予定日 平成 26 年 4 月 25 日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成 26 年 12 月期第 1 四半期の業績 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26 年 12 月期第 1 四半期	1,713	29.6	58	63.0	56	46.1	38	48.4
25 年 12 月期第 1 四半期	1,321	3.0	35	265.0	38	—	25	—

	1 株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26 年 12 月期第 1 四半期	13.32	13.23
25 年 12 月期第 1 四半期	9.10	9.05

(注) 平成 25 年 7 月 1 日効力発生日として 1 株につき 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1 株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26 年 12 月期第 1 四半期	2,504	500	19.9
25 年 12 月期	2,318	462	19.9

(参考) 自己資本 26 年 12 月期第 1 四半期 498 百万円 25 年 12 月期 460 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25 年 12 月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26 年 12 月期	—	—	—	—	—
26 年 12 月期(予想)	—	0.00	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無  
 平成 26 年 12 月期の期末配当につきましては未定です。

3. 平成 26 年 12 月期の業績予想 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 12 月 31 日)

(%表示は、通期は対前期、第 2 四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1 株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第 2 四半期(累計)	3,389	25.5	117	△3.4	113	△9.4	78	△4.0	27.11
通期	7,582	33.3	409	100.5	401	91.2	325	114.4	112.95

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年12月期1Q	2,879,700株	25年12月期	2,877,300株
26年12月期1Q	一株	25年12月期	一株
26年12月期1Q	2,878,002株	25年12月期1Q	2,837,300株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 平成 25 年 7 月 1 日を効力発生日として 1 株 100 株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、政府による経済政策や日銀の金融政策を背景に景気回復の兆しがみられ、雇用情勢も着実に改善してまいりました。

外食産業におきましては、本年4月からの消費税増税前の駆け込み需要により、個人消費は増加したものの、2月には関東甲信地方で記録的な大雪となり、営業時間の短縮や休業を余儀なくされる店も出るなど、売上に大きな影響を及ぼしました。

こうした状況のもと、当社は「足元固め、手堅く、大胆なる飛躍」を基本方針として、新規業態の出店拡大とそれに伴う新規メニューの開発・導入に取り組んでまいりました。また、お客様への安心・安全な商品提供ができる体制強化に努めてまいりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間における業績は、売上高1,713百万円（前年同期比29.6%増）、営業利益58百万円（前年同期比63.0%増）、経常利益56百万円（前年同期比46.1%増）、四半期純利益38百万円（前年同期比48.4%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

#### ① ペッパーランチ事業

ペッパーランチ事業につきましては、食材仕入価格の高騰に伴い消費税増税のタイミングで主力商品の値上げを実施するとともに、お客様へのサービス向上等を目的として、券売機からレジ会計への移行を一部の店舗を除き完了いたしました。

既存店の2月・3月におきましては食中毒事故前である平成21年の売上を上回り、前年対比売上は、17ヶ月連続100%を超えて好調に推移しております。

新規出店におきましては、被災地復興支援の取り組みとして岩手県の釜石市にペッパーランチイオンタウン釜石店をオープンいたしました。

「92's (クニズ)」は、3月にイオンモール日の出店、イオンモール天童店、エミフルMASAKI店、アリオ鳳店の4店舗がオープンし、計11店舗となりました。

海外におけるペッパーランチ事業では引き続き好調に推移しております。新規出店に伴う機器等の売却、ロイヤリティ収入などの売上高は54百万円（前年同期比7.9%増）となりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は1,108百万円（前年同期比8.8%増）、営業利益は173百万円（前年同期比12.8%増）となりました。また、新規出店数は12店舗（うち海外6店舗）であり、ペッパーランチ事業全体の店舗数は296店舗となりました。

#### ② レストラン事業

レストラン事業につきましては、昨年12月にオープンした「いきなり！ステーキ」の2号店となる銀座6丁目店を1月にオープンし、2店舗ともにオープン当初からお客様の高い支持を頂き好調なスタートが切れました。また、3月30日には本社前に研修店も兼ねた吾妻橋店をオープンし、合計3店舗となりました。

牛たん業態「牛たん仙台なとり」は、2月にイオン与野店、イオン北戸田店の2店舗、3月には、イオンモール和歌山店がオープンし、合計6店舗となりました。

ステーキ業態「炭焼ステーキくに」では、赤坂店、両国店の2店舗限定で月に1回行われている異業種交流会「美味しいステーキを楽しく食べる夕べ」の継続的な開催により、ブランドイメージの向上を図ってまいりました。赤坂店では、過去最高売上の記録を更新中で、「いきなり！ステーキ」との業態の棲み分けが成功したことにより相乗効果を発揮しております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は597百万円（前年同期比101.8%増）、営業利益は22百万円（前年同期比65.5%増）となりました。また、新規出店数は5店舗であり、レストラン事業全体の店舗数は23店舗となっております。

#### ③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「とんかつソース」、「冷凍ペッパーライス」及び「冷凍ハンバーグ」の販売において新規顧客の獲得目指し、ネット販売を中心に行ってまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は6百万円（前年同期比7.4%増）、営業損失は1百万円（前年同期は1百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて186百万円増加し2,504百万円になりました。これは主に、現金及び預金が24百万円増加したこと、建物(純額)が135百万円増加したこと並びに敷金及び保証金が24百万円増加したことによるものです。

負債合計は、前事業年度末に比べて148百万円増加し、2,004百万円となりました。これは主に、買掛金が36百万円増加したこと、借入金が84百万円増加したこと、未払金が61百万円増加したこと及び未払法人税等が26百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて38百万円増加し、500百万円となりました。これは主に、第29期定時株主総会にて資本準備金の額の減少及び剰余金の処分を決議したこと、四半期純利益を38百万円計上したことなどにより、資本剰余金が675百万円減少及び利益剰余金が714百万円増加したことによるものです。また、自己資本比率は前事業年度末と変わらず19.9%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年2月14日付の「平成25年12月期 決算短信(非連結)」にて公表しました第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成26年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	569,930	594,810
売掛金	325,194	307,603
商品	28,941	22,429
貯蔵品	20,558	20,263
繰延税金資産	25,000	25,000
その他	181,436	182,911
貸倒引当金	△4,614	△5,731
流動資産合計	1,146,447	1,147,286
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	765,114	915,377
減価償却累計額	△355,516	△369,798
建物(純額)	409,598	545,578
その他	519,965	558,820
減価償却累計額	△395,998	△406,960
その他(純額)	123,967	151,859
有形固定資産合計	533,565	697,438
無形固定資産	65,113	63,220
<b>投資その他の資産</b>		
敷金及び保証金	540,946	565,254
その他	49,755	48,936
貸倒引当金	△18,181	△17,808
投資その他の資産合計	572,520	596,382
固定資産合計	1,171,198	1,357,040
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	532	396
繰延資産合計	532	396
資産合計	2,318,178	2,504,724

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期会計期間 (平成26年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	517,949	554,013
短期借入金	96,800	62,299
1年内返済予定の長期借入金	111,600	143,804
未払金	193,667	254,791
未払法人税等	38,093	11,189
賞与引当金	—	3,999
役員賞与引当金	3,700	—
資産除去債務	1,687	3,891
その他	175,118	192,536
流動負債合計	1,138,615	1,226,526
固定負債		
社債	40,800	19,200
長期借入金	324,400	410,842
受入保証金	274,496	269,096
繰延税金負債	8,875	10,027
資産除去債務	48,065	53,047
その他	20,750	15,524
固定負債合計	717,388	777,736
負債合計	1,856,003	2,004,263
純資産の部		
株主資本		
資本金	719,486	720,228
資本剰余金	676,043	741
利益剰余金	△938,672	△224,300
株主資本合計	456,857	496,669
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,310	2,178
評価・換算差額等合計	3,310	2,178
新株予約権	2,006	1,612
純資産合計	462,174	500,460
負債純資産合計	2,318,178	2,504,724

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	1,321,797	1,713,114
売上原価	649,291	840,932
売上総利益	672,506	872,181
販売費及び一般管理費	636,897	814,140
営業利益	35,608	58,040
営業外収益		
受取利息	52	50
受取賃貸料	1,296	1,297
協賛金収入	2,703	2,012
その他	666	467
営業外収益合計	4,719	3,827
営業外費用		
支払利息	237	2,305
社債利息	527	325
その他	641	2,369
営業外費用合計	1,406	5,001
経常利益	38,921	56,867
特別利益		
新株予約権戻入益	—	9
特別利益合計	—	9
特別損失		
固定資産除却損	1,773	483
減損損失	—	1,609
特別損失合計	1,773	2,093
税引前四半期純利益	37,147	54,783
法人税、住民税及び事業税	11,479	14,676
法人税等調整額	△162	1,778
法人税等合計	11,316	16,454
四半期純利益	25,831	38,328



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

平成26年2月14日開催の取締役会において、平成26年3月26日開催の定時株主総会に、次のとおり資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について付議することを決議し、同定時株主総会にて承認可決されました。

(1) 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分の目的

今後の資本政策の柔軟性及び機動性を確保することを目的として資本準備金の額を減少し、欠損填補に充て早期復配体制の実現を目指すものであります。

(2) 資本準備金の額の減少の要領

減少する準備金の額	
資本準備金	676,043千円
増加する剰余金の額	
その他資本剰余金	676,043千円

(3) 剰余金の処分の要領

減少する剰余金の額	
その他資本剰余金	676,043千円
増加する剰余金の額	
繰越利益剰余金	676,043千円

上記の結果、当第1四半期累計期間において資本剰余金が676,043千円減少し、利益剰余金が676,043千円増加しております。なお、当第1四半期会計期間末においては資本剰余金741千円及び利益剰余金が△224,300千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,019,139	296,214	6,444	1,321,797	—	1,321,797
計	1,019,139	296,214	6,444	1,321,797	—	1,321,797
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	153,922	13,835	△1,650	166,107	△130,499	35,608

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△130,499千円は、各報告セグメントに配分していない  
全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期損益 計算書計上額 (注2)
	ペッパーランチ 事業	レストラン事業	商品販売事業			
売上高 外部顧客へ の売上高	1,108,527	597,662	6,924	1,713,114	—	1,713,114
計	1,108,527	597,662	6,924	1,713,114	—	1,713,114
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	173,631	22,901	△1,016	195,517	△137,476	58,040

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△137,476千円は、各報告セグメントに配分していない  
全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「ペッパーランチ事業」において、当第1四半期累計期間に営業活動から生ずる損益が著しく低下した店舗等  
について、当該店舗の資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損  
失に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期累計期間においては1,609千円でありま  
す。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社はこれまで炭焼ハンバーグ ステーキクにのセグメント区分を「レストラン事業」としておりましたが、  
当第1四半期会計期間の組織変更に伴い、「ペッパーランチ事業」に変更しております。

なお、前第1四半期累計期間に開示している金額は、変更後の区分方法により組替えたものを記載しておりま  
す。